



## 失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ

先月27日に、この夏2回目の登園日を設けました。1号認定の子どもたちとの再会は心が弾むと同時に、皆の元気な姿に安堵しました。

登園日に8月の誕生会をしました。その会で、私が子どもたちに、「今、テレビで盛り上がっているスポーツを知っていますか?」と尋ねたところ、多くの子たちが「パラリンピック!」と即答してくれました。



パラリンピックシンボルマーク

自国開催の成果です。子どもたちも含め多くの国民が、テレビ観戦を通じて障害のある人たちのことを知り、関心をもつきっかけになったのではないのでしょうか。

パラリンピックの創始者、英国ルートヴィヒ・グットマン博士の言葉、「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」は、今のコロナ渦においても通じるものがあります。

新型コロナは、8月から急激に感染拡大を続けています。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出された対象区域は33都道府県にも広がり、例えば東京から鹿児島まで新幹線に乗った時、山口県以外はどこの駅で降りても対象区域となってしまいました。さらに不安なのは、今や子どもたちにも容赦なく襲いかかっているということです。

幼稚園では、感染拡大レベル3に応じた対策に最大限取り組んでいます。また、保護者の皆様にも、マスク着用や健康観察表の記入など毎日ご協力をいただいています。しかし、園児同士の遊びの場や様々な経験の場を保障しつつ、幼児特有の行動特性を完璧に制御するには限界もあります。もしどこかで感染し、無症状の子どもが登園して来たとしたら、他の園児への影響を最小限に食い止めることはできても、完全に防ぐことはできないということをご理解ください。保護者の皆様には、ご家族の体調に変化が見られる時は、心当たりがなくてもコロナの可能性を疑い、お子様の登園も控えてくださいますよう改めてお願いします。また、もし園児や職員の感染が確認された際には、一時的に臨時休業あるいは学級閉鎖等を実施することになりますことをご承知おきください。

ところで、ある専門家によると、「人間の感覚はすべて合わせて100%になるようにできている。一つの感覚が失われたとしても、他の感覚で補うことで100%を保っている。逆に、一つの感覚が過敏な場合は、他のどこかの感覚が鈍ってしまう。」のだそうです。

そう言えば、私がかつて盲学校（現下関南総合支援学校）で教えた子（小3）は、全盲で知的障害を伴っていました。明るく天真爛漫で、嬉しいことがあると何日もそのことを繰り返し話してくれます。その子はよく校内を散策していました。盲学校の廊下は点字ブロックがセンターラインになっているので、見えなくても点字ブロックの上を歩いていれば安全です。ところが、点字ブロックは廊下のつき当たりまで敷いてあるのです。安心して歩いていると、壁にぶつかってしまいます。その子も最初の頃はよくぶつかっていました。ところが、5年生の頃から壁の直前でピタッと止まるようになったのです。そしておもむろに向きを変え、また歩き出す。先輩の全盲の先生に尋ねると、足音が壁に響いて返ってくる音の大きさや間隔、肌に感じる空気で何となく分かるようになるかと教えていただきました。見えない代わりに他の感覚が超人的に発達しているのです。

コロナを嘆き、コロナの収束を待ち望むばかりでなく、コロナ禍でもできること、コロナ禍だから気付けること、身に付けることができる力があるはずです。グットマン博士の教えのように、私たちが新たな感覚を研ぎ澄ましながら努力していかなければと思います。（園長 寺本 明生）